

## 第7章 CF計算書の分析

### 本日のテーマ

#### ①CF計算書の話です

第15回、21回の記述で同じような問題が出題されています。

第2問対策としても、特に理論はしっかり押さえておく必要があります。

今日のマトメは第15回・21回を確認しましょう。

#### ②キャッシュフロー分析の意義

#### ③キャッシュフロー計算書の構造

1級ではじめて出てくる概念なのでしっかり押さえよう

1級財務諸表でも基本概念は学びます

#### ④キャッシュフロー計算書の実数分析・比率分析

実数分析→キャッシュフロー増減分析・キャッシュフロー分岐点分析など

比率分析→構成比率・趨勢比率分析

①キャッシュフロー分析の意義

「勘定合って銭足らず」→黒字倒産は怖い

企業経営者はPL重視が多い→B/S・C/F分析の重要性を理解しよう  
→BSは一定時点・CFは流れ

<意義>

企業経営において利益管理・財政状態の管理は重要。しかし企業は赤字になったから倒産するのではなく資金が尽きたときに倒産するのである。売上の発生と回収はの時間的ズレがある。そこに資金管理の重要性があるのだ。PLにおいては現1年間のフロー管理はできるが、このなかには現金収支を伴わない減価償却費や貸倒引当金繰入額がある。BSにおいては期末時点のキャッシュの状況は把握できるが1年間のフロー管理はできない。キャッシュフロー計算書は両者の短所を補う形にこそ存在意義があると考えてよいだろう。

②キャッシュフロー計算書の構造（中小企業診断士の問題を解いてみよう）

「資金の範囲」の定義（理論対策で重要）

→現金および現金同等物

資金 { 現金→手許現金と要求払預金（事前の通知なしに引き出せる預金）  
定期預金は契約から満期までの期間が3か月以内  
現金同等物→容易に換金可能かつ価値の変動につき僅少なりリスクしかない

∴株式はダメ、定期預金は企業が6か月と決めれば可（問題分の指示）

<構造>

|                 |            |                         |
|-----------------|------------|-------------------------|
| 営業活動によるCF       | 3,000,000  | 本業+投資・財務以外<br>直接法と間接法あり |
| 投資活動によるCF       | △1,000,000 | BSの借方イメージ               |
| 財務活動によるCF       | △1,500,000 | BSの貸方イメージ               |
| 現金および現金同等物の増加額  | 500,000    |                         |
| 現金および現金同等物の期首残高 | 1,500,000  |                         |
| 現金および現金同等物の期末残高 | 2,000,000  |                         |

この表をみてどう考えますか？

<直接法と間接法>

作ってみるとよくわかる！

中小企業診断士 2 次試験（平成 23 年度）から確認しよう

|                 | D 社<br>平成 21 年度末 | D 社<br>平成 22 年度末 | 同業他社<br>平成 22 年度末 |
|-----------------|------------------|------------------|-------------------|
| <b>資産の部</b>     |                  |                  |                   |
| 流動資産            | 851              | 900              | 469               |
| 現金・預金           | 126              | 163              | 68                |
| 受取手形・売掛金        | 339              | 360              | 200               |
| 貸倒引当金           | △3               | △3               | △2                |
| 有価証券            | 10               | 10               | 20                |
| 棚卸資産            | 377              | 368              | 182               |
| その他流動資産         | 2                | 2                | 1                 |
| 固定資産            | 425              | 402              | 377               |
| 土地              | 162              | 162              | 117               |
| 建物・機械装置         | 689              | 689              | 341               |
| 減価償却累計額         | △468             | △490             | △147              |
| 投資有価証券          | 42               | 41               | 66                |
| <b>資産合計</b>     | <b>1,276</b>     | <b>1,302</b>     | <b>846</b>        |
| <b>負債の部</b>     |                  |                  |                   |
| 流動負債            | 578              | 579              | 340               |
| 支払手形・買掛金        | 298              | 285              | 118               |
| 短期借入金           | 198              | 210              | 145               |
| 未払法人税等          | 2                | 4                | 3                 |
| その他流動負債         | 80               | 80               | 74                |
| 固定負債            | 374              | 390              | 256               |
| 長期借入金           | 350              | 368              | 234               |
| その他固定負債         | 24               | 22               | 22                |
| <b>負債合計</b>     | <b>952</b>       | <b>969</b>       | <b>596</b>        |
| <b>純資産の部</b>    |                  |                  |                   |
| 資本金             | 13               | 13               | 11                |
| 利益準備金           | 3                | 3                | 1                 |
| 別途積立金           | 300              | 300              | 226               |
| 繰越利益剰余金         | 8                | 17               | 12                |
| <b>純資産合計</b>    | <b>324</b>       | <b>333</b>       | <b>250</b>        |
| <b>負債・純資産合計</b> | <b>1,276</b>     | <b>1,302</b>     | <b>846</b>        |

損益計算書

(単位：百万円)

|           | D 社<br>平成 22 年度 | 同業他社<br>平成 22 年度 |
|-----------|-----------------|------------------|
| 売上高       | 2,450           | 1,935            |
| 売上原価      | 1,972           | 1,539            |
| 売上総利益     | 478             | 396              |
| 販売費・一般管理費 | 428             | 362              |
| 営業利益      | 50              | 34               |
| 営業外収益     | 5               | 11               |
| (うち受取利息)  | (5)             | (10)             |
| 営業外費用     | 40              | 21               |
| (うち支払利息)  | (40)            | (21)             |
| 経常利益      | 15              | 24               |
| 特別利益      | —               | 1                |
| 特別損失      | —               | 2                |
| 税引前当期純利益  | 15              | 23               |
| 法人税等      | 6               | 9                |
| 当期純利益     | 9               | 14               |

第1問(配点 35 点)

(設問 1)

D 社の財務諸表を用いて経営分析を行い、同業他社との比較を通じて、D 社の財務上の問題点と思われる点を特徴づける経営指標を 3 つ取り上げ、その名称を(a)欄に示し、数値を計算(小数点第 3 位を四捨五入すること)して(b)欄に示した上で、その原因を(c)欄に、改善策を(d)欄にそれぞれ 60 字以内で述べよ。

(設問 2)

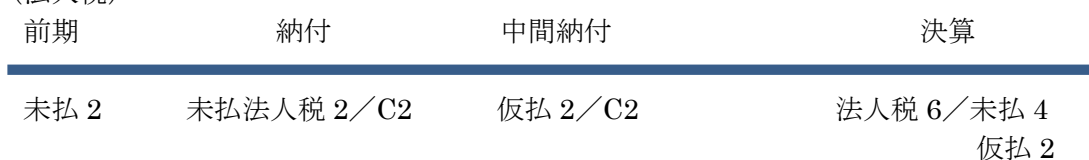
D 社の営業キャッシュフローの計算過程を(a)欄に示し、今後の経営上の課題について(b)欄に 100 字以内で述べよ。

<直接法>実際の流れが理解しやすい

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 営業収入               | 2,429  |
| 商品等の仕入支出           | △1,976 |
| 人件費+その他の支出（減価償却以外） | △406   |
| 小計                 | 47     |
| 利息の受取額             | 5      |
| 利息の支払額             | △40    |
| 法人税の支払額            | △4     |
| 営業CF               | 6      |

減価償却費 22（減価償却累計額の差額）当期固定資産増加ないので

（法人税）



<間接法>利益とCFの関係がわかる

|           |     |
|-----------|-----|
| 税引前当期純利益  | 15  |
| 減価償却費     | 22  |
| 貸倒引当金の増加額 | 0   |
| 支払利息      | 40  |
| 受取利息      | △5  |
| 売上債権の増加額  | △21 |
| 棚卸資産の減少額  | 9   |
| 仕入債務の減少額  | △13 |
| 小計        | 47  |

経営上の課題→（一般論）売上債権の早期回収を図る、仕入債務とのバランス

③キャッシュフロー計算書の比率分析  
 営業活動によるCFを100として分析  
 最後の練習問題で確認しましょう

<マトメ>

## 第15回

【第1問】 次の設問に答えなさい。解答にあたっては、各設問とも指定した字数以内で記入すること。 (20点)

問1 キャッシュ・フロー分析の意義を説明しなさい。(300字以内)

問2 キャッシュ・フロー計算書の実数分析について説明しなさい。(200字以内)

## 第21回

【第1問】 次の設問に答えなさい。解答にあたっては、各設問とも指定した字数以内で記入すること。 (20点)

問1 キャッシュ・フロー分析の意義を説明しなさい。(250字以内)

問2 キャッシュ・フロー計算書の構成比率分析について説明しなさい。(250字以内)

## 練習問題 7-3

7・3 次の資料に基づいてA社およびB社の百分率キャッシュ・フロー計算書を作成し、それについて簡単にコメントしなさい(単位:千円)。

| (自平成×2年4月1日至平成×3年3月31日) |                |                |
|-------------------------|----------------|----------------|
|                         | A社             | B社             |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー        |                |                |
| 営業活動による収入               | 15,000         | 30,000         |
| 営業活動による支出               | <u>-11,000</u> | <u>-27,000</u> |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー        | 4,000          | 3,000          |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー        |                |                |
| 投資活動による収入               | 1,000          | 3,000          |
| 投資活動による支出               | <u>-7,000</u>  | <u>-10,000</u> |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー        | -6,000         | -7,000         |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー        |                |                |
| 財務活動による収入               | 4,000          | 9,000          |
| 財務活動による支出               | <u>-1,000</u>  | <u>-5,000</u>  |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー        | 3,000          | 4,000          |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額        | <u>500</u>     | <u>1,000</u>   |
| 現金及び現金同等物の増加額           | 1,500          | 1,000          |
| 現金及び現金同等物期首残高           | <u>4,500</u>   | <u>7,000</u>   |
| 現金及び現金同等物期末残高           | <u>6,000</u>   | <u>8,000</u>   |

| 項 目              | A 社     |        | B 社     |        |
|------------------|---------|--------|---------|--------|
|                  | 実数(千円)  | 百分率(%) | 実数(千円)  | 百分率(%) |
| 営業活動による収入        | 15,000  | 100.00 | 30,000  | 100.00 |
| 営業活動による支出        | -11,000 | -73.33 | -27,000 | -90.00 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,000   | 26.67  | 3,000   | 10.00  |
| 投資活動による収入        | 1,000   | 6.67   | 3,000   | 10.00  |
| 投資活動による支出        | -7,000  | -46.67 | -10,000 | -33.33 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | -6,000  | -40.00 | -7,000  | -23.33 |
| 財務活動による収入        | 4,000   | 26.67  | 9,000   | 30.00  |
| 財務活動による支出        | -1,000  | -6.67  | -5,000  | -16.67 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 3,000   | 20.00  | 4,000   | 13.33  |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 500     | 3.33   | 1,000   | 3.33   |
| 現金及び現金同等物の増加額    | 1,500   | 10.00  | 1,000   | 3.33   |

営業収入からみた企業規模は、A社よりもB社のほうが遙かに大きいですが、営業活動によるキャッシュ・フローの割合は逆にA社の方が2.7倍程度大きくなっている。営業収入に対する投資活動によるキャッシュ・フローの割合は、A社はB社の1.7倍程度上回っていることもわかる。このことから、A社は本業である営業活動によるキャッシュ・フローの面ではB社よりも優れており、かつA社は将来のキャッシュ・フローの獲得を意図した投資活動にB社よりも積極的であることがわかる。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローの割合からもわかるように、B社よりもA社のほうが高水準の資金調達を行うことになっている。